

統計改革推進会議 第6回 コア幹事会（平成29年4月7日）
議事要旨

（開催要領）

1. 開催日時：平成29年4月7日（金）10時00分～12時00分
2. 開催場所：中央合同庁舎第8号館416会議室

（議事次第）

1. 開会
2. 議事
 - （1）中間報告案の案文審議
 - ① 案文説明（事務局）
 - ② 意見交換
3. 閉会

（配布資料）

- 資料1 統計改革推進会議中間報告（案）（事務局作成資料、非公表）
資料2 統計改革推進会議中間報告 概要（事務局作成資料、非公表）
資料3 統計改革推進会議中間報告 参考資料（事務局作成資料、非公表）

参考資料 第5回コア幹事会議事要旨（平成29年3月31日開催）

（概要）

【事務局説明】

事務局より中間報告の案文について説明（資料1、2、3）。

【意見交換】

主な意見は以下の通り。

○GDP 統計の改善

- 昨年末の「統計改革の基本方針」以降、今回の取組も含めて、GDP 統計改革の内容について分かり易い説明資料を作成して欲しい。個々の改革によって、GDP のどこがどのように改善されるのかを分かり易く発信すべき。

○地方統計

- 各省庁の出先機関が作成する地方統計については、所管範囲に応じて地方区分が決まるため、統計間で区分がまちまちで、使いづらいという問題がある。こうした公表統計に対して、国による一体性の確保・支援を明示的に盛り込むべきではないか。

○統計委員会の機能強化

- 統計委員会の機能・権限を強化した場合には、それがしっかりと機能するよう、監視装置みたいなものを考えることが必要。
- 統計委員会の機能・権限の強化は当然。ただし、統計人材が不足している現状を鑑みると、統計委員会とは別に、新たに監視を担う組織を作るのは難しい。実態としては、統計委員会の中でお互いにチェックするシステムを作るしかないのでは。
- 統計委員会の機能を外から監視するような組織を作るのは、最終的な責任の所在が曖昧になるため反対。統計委員会の機能を強化しても、積極的な情報開示と外からの意見を踏まえた調整を行うことを明確にすれば、機能不全になることはないのではないか。

○人材育成

- 統計人材の育成は今回の統計改革のキーポイント。日本の大学では、統計データを使って実証分析するという風土がまだまだ足りない。これを改善しないと、政府内でデータ分析に知見のある優秀な人材を取ることが出来ない。
- 大学や研究機関に所属する人々にとって、政府の統計部署で日本の統計改善に貢献したということが、必ずしも大学等の評価に結び付かないことが非常に大きな問題。大学評価や教員評価の際に、政府の統計部署における勤務実績をしっかりと評価すべき。
- 大学の人事評価の際に、政府の統計部署で勤務することを評価すべきとの考え方は反対。まずは、外部の人に対して実質的な参画を求めるような環境整備に取り組むべきではないか。

- 外部から政府に人材を受け入れる際には、受入人材が組織の中でお客さん扱いのようにならないようにするとともに、政府のプロパーの職員との間で大きく不平等が生まれないように留意する必要がある。
- 海外に倣い、我が国でもマイクロデータ分析施設等を上手く活用することで、大学院生や若手研究者に対して、政府の統計機関で働くことへのインセンティブ付けをすることが可能ではないか。

○利活用の促進

- 政府が民間の統計データにアクセスできるようにすることが、統計改革の根幹。データへのアクセスの仕方や統計関係法制の観点も含め、引き続き検討して欲しい。